

二 次の文章を読んで、後の問一～八に答えなさい。

生物としてのヒトの第一の特徴は二足歩行だと言われる。

物の歩行を観察すればよくわかるが、四本柱で立つていたらこの上なく安定していく移動是不可能である。前足一本のうち一本に体重をかけ、あとの一本が肩からぶら下がつてはじめて自由になつて前へ振り出すことができるようになる。人間の足も同じことで、安定を崩さなくては前進はできぬ。つまりヒトは一本足で立つ動物なのである。重さは常に一本の足にかかり、一方の足が腰からぶら下がり、それが振り出され、着地すると、そこへ体重が移つてゆく。(I)

これを、ヒトの歩き方の基本型だとすると、これは日本国内ではめつたに見ることができない。私が見たこの型のもつとも美しい歩きはインドの人たちのそれであつた。ガンガー河中流の釈迦成道の地ブッダガヤあたりの農村では亭々たるキヨボクが並木を作る街道を、いittai何キロメートルを歩いてくるのか、人々がゆつたりしたリズムで、ときれもなく続いて来るのである。その一人一人が実にみごとに美しい。(II)これについて私は別に書いたのだが、浅黒い肌にガラ物のワイシャツに細身のズボンの男たちは、まるで杉の若木のようにまっすぐ上に伸びている。スタニスラフスキーは『俳優修業』の第二部で歩き方に書いて書き、一日中広場で観察していく、十二、三歳ごろの少女の歩き方を見つけ、これこそ理想だと喜ぶエビソードを記しているが、なるほどこれなのか、と私は目を見張つた。(III)実のところ、初めてこれを読んだまだ二十歳台の私は街やら学校やらで、憧れも手伝つて、随分見て廻つたのだが、さっぱりナットクのいく歩きにお目にかかるなかつた記憶がある。

これに比べると日本人の歩き方はまるで違う。インドの、そしてヨーロッパやアフリカの人々の場合、足と言えば、腰から下全部が一つに連なつて動く。(Y)足とは腰から下全部で、その上にちょこんと胴が乗つてゐる。ところが日本人はやや膝を曲げ腰を落として、股関節から下だけを交互に前へ振り出して歩く。こちらの足は長い胴体の下についたちょうどアヒルの水かきと同じ形である。これは本質的にシユリョウ民族と水田耕作民族の身の支え方の違いであろう。前者において生活の基本はけものを追つて走ることであり、歩くとはいわばゆっくり走ることに他ならないのに、後者においては、重いものを支えて泥沼を、腰を水平に保ちつつ足をひきぬきひきぬき歩くことが基本になる、と、しよう。(IV)すれば、走るという動作は生活に必要ない。(Z)日本の武術には基本的に「走る」ことはない。忍者の動作に見られるように、「走る」とはただ、速く歩くことに他ならない。

宮本武蔵の『五輪書』には、かかとに重さをかけ、爪先は軽く浮かす、と教えてある。(V)すぐ気づくようにこれは能の足の運びの基本と全く同じである。からだは低く沈み、すり足で動き、足跡は二つの線の上を辿るこの形と、インドの人々の爪先で地を蹴つて前進する姿とは、ヒトの歩き方の

X 実は、二本足で立つていたら移動はできないのだ。クマやトラなど四本足の動

二典型と言つてよいであろうか。（中略）

中井正一の『美学入門』風に言えば、日本人の足はギリシャの神殿の柱のエントアシスのように運命の重さを支え耐える形であり、インドやヨーロッパの人々のそれはゴシック建築の如く天に向かつて伸び上がろうとしている、ということにならうか。日本の近代劇の俳優にとって、いかなる腰の保ち方によつて、舞台に美しく安定した、しかも「生きた足」を生み出せるか、は容易なことではない。私の目には、タルコフスキイの映画『サクリファイス』の中で初老の主人公がカメラに向かつてまっすぐに歩み寄り歩み去る足の美しさと、もう一方、能のシテの白足袋の運びの冴えとが二重映しになる。

日本の武術はもちろん裸足が原則である。履くとしても足袋か、あるいは足半（あしなか。かかとの部分はない草履）である。裸足の足の裏の感覚がひたと大地をとらえ、大地に応え、はずむこと。そのためには足の裏と足の指全部でしかと土をつかむことが、まずは必須のことになる。土をつかみ、放し、土に寄りそい、つき返され、爪先が吸い寄せられかかとDが抵抗Cしあい、一刻ごとに受け应えがはずむ時、土と生きている足の裏の対話は、やがて全身にひろがつて踊りとまでなるのである。

(注) エンタシス——柱のほぼ中央につけたふくらみ。

竹内敏晴「思想する「からだ」」

問一 傍線部ア、イ、ウの漢字と同じ漢字を用いるものを、次の各群の選択肢から、それぞれ一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番

号はアが 11 、イが 12 、ウが 13 。

- ア キヨボク  
キヨシンに耳を傾ける  
キヨドウ不審な人物  
キヨトウ会談を行う  
面会をキヨゼツする  
胸にキヨライする思い
- イ ガラ  
ゴハイがある表現に気づく  
今年はカラツユの予報だ  
カラヨウの家を建てる  
ハイコウして走る  
オウハイな態度をとる

- ウ シュリョウ  
リヨウケンを訓練する  
タリリョウに生産する  
ホンリョウを發揮する  
サイリョウの友を得る  
リヨウキヨクに分かれる

問二 文中の空欄部  
X 、Y 、Z には接続詞が入る。入る接続詞を正しく組み合わせたものを次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、14 。

- (a) X つまり  
(b) X だが  
(c) X そして  
(d) X だから  
(e) X だが  
  
(a) Y そして  
(b) Y だから  
(c) Y また  
(d) Y だから  
(e) Y つまり  
  
(a) Z つまり  
(b) Z だから  
(c) Z だから  
(d) Z だから  
(e) Z つまり

問三 本文からは、「これが歩くと言うことだ。」という一文が抜き出されている。どこに戻したらよいか。最も適切な箇所を、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、15。

- (a) I  
(b) II  
(c) III  
(d) IV  
(e) V

問四 傍線部Aの「日本国内ではめったに見ることができない」のはなぜか。筆者が考へていて理由に最も近いものを次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、16。

- (a) 二十歳の時に街やら学校やらで随分見て廻つたが、ナットクのいく歩きにお目にかかるなかつたから。  
(b) 日本人は、やや膝を曲げ腰を落として、股関節から下だけを交互に前へ振り出して歩くから。  
(c) インドやヨーロッパやアフリカの人にとって歩くことはゆっくり走ることだが、日本人にとってはそうではないから。  
(d) 日本国内では、農村のあたりでもゆつたりしたリズムで、土と対話しながら裸足で歩く人は少ないから。  
(e) 日本人はインドやヨーロッパやアフリカの人よりも、足がアヒルの水かきのように短いから。

問五 傍線部Bの「これ」とは何を指しているか。最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、17。

- (a) 十二、三歳ごろの少女の歩き方  
(b) 腰から下全部が一つに連なつて動く足  
(c) 浅黒い肌にガラ物のワイシャツに細身のズボンの男たち  
(d) インドのブツダガヤあたりの農村で見た人々の歩き方  
(e) スタニスラフスキイの『俳優修業』の第二部

問六 傍線部C「容易な」とではない」のはなぜか。その説明として最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。

解答番号は、。

- (a) 舞台の上は堅く、足を引き抜きながら歩く感覺は得にくいので。
- (b) 舞台の上では、足の裏と足の指全部でしかと土をつかむことができないため。
- (c) 能のような日本の伝統芸能における足の運びは、近代劇に要請される腰の保ち方と相容れないから。
- (d) 日本人の足はギリシャ神殿の柱のエンタシスのように運命の重さを支えているから。
- (e) 近代劇はヨーロッパから発生しており、日本人が演ずるのは難しいので。

問七 傍線部D「かかときつこうが拮抗きっこうしあい」とはどういうことか。その説明として最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

- (a) 裸足の足のかかとで土を踏みしめ反動を味わうこと。
- (b) 跳び上がったときに両足のかかとを空中でたたき合わせること。
- (c) 足の裏の感覺が裸足であることで敏感になつてくること。
- (d) 爪先立ちになり、かかとを高く引き上げること。
- (e) 重心を下げて、かかとを上げずにすり足で歩くこと。

問八 次の①～⑤のうち、日本人の歩き方について説明したものに○を、そうでないものに×をつけ、正しく組み合わせたものを次の選択肢から一つ

選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

□  
20

① 爪先で地を蹴つて前進する。

② 腰を水平に保ちつつ足をひきぬきひきぬき歩く。

③ かかとに重さをかけ、爪先は軽く浮かす。

④ 一方の足が腰からぶら下がり、振り出され着地する。

⑤ 天に向かって伸び上がろうとする。

⑥	④	③	⑤	⑥	⑤
①	①	①	①	①	①
×	○	×	×	○	○
②	②	②	②	②	②
○	×	×	○	○	○
③	③	③	③	③	③
○	×	○	×	×	×
④	④	④	④	④	④
×	○	×	×	○	○
⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤
×	×	○	○	×	×